

園長だより NO126

なんとか8月を乗り越えました。暑い毎日、室内で過ごすことが多いこの時期、お日様の日差しをあびて、水遊び、プール遊びに夢中になった日が懐かしく思えます。時代の流れ、どんどんと便利な世の中になり、何事においても生産性があがり、地球温暖化の原因はぬぐえません。これから先、四季がなくなってしまうのか、暑いけど心地よかった夏は戻らないのかなと思うと寂しいものです。

夏の過ごし方を工夫し上書きを怠ることなく子どもにとって過ごしやすい環境を今後も継続して考え続けなければなりません。

子どもの変化は大人の変化から

もう30年以上も前の事です私が30代の頃、子どもの未来をかたる雑誌というものが世に出ていました。教育書というものが、どんどんすたれていくなかで幼稚園、保育園の先生に向けたもので現場によりそった実践的なものでした。昔は情報を収集しようにも現在のようなスマホでレスポンスよく仕入れることはできない時代でした。

その雑誌には上記のタイトルについて大学の先生が投稿していました。

こんなことを書いていたと記憶します。幼稚園で働いていた私も同じようなことを感じていました。

最近の子は依頼心が強く自立心がないという文からの書き出しです。何事に対しても



2026.9.3

自発的に取り組むことがなく、大人の指示がないと動けない、動こうとしない、しかも、ものごとに意欲的に取り組もうとしないという相談があったという事例をもとにした内容です。

本当に今の子どもは意欲的でなくなり、自立心を失ってきているのでしょうかという問いに対し解説がはじまります。

本来、子どもは意欲的なもの、子どもの成長の過程を考えてみると生まれたばかりの赤ちゃんを想像してみればわかるように、とにかく大人に頼らなければ生きていけない状況です。でもすぐに授乳がはじまり、おしめを取り換えてもらい、着替えなど諸々の育児行為を大人の手を借り命を育んでいきます。

でも、ほとんどの赤ちゃんは生まれた瞬間から意欲的です。お母さんの胸に力強く吸い付いて、母乳を飲んでいく、おしめがぬれたり、おなかのすいたら大きな声で泣く、気温の変動にも敏感で暑い、寒いに反応している。

※布おむつを使用している時代です

こんな内容だったかな 当時、私の娘も、赤ちゃんで共感しながら読んだものでした。

人間に限らずこの世に生きているものは本来、意欲的だと思っています。それが成長し保育園や幼稚園にはいる年齢になると意欲的でないとか自発的でないとか、問題とされる子がでてしまうようになります。

私は問題だと思っていなかったのですが当時の社会がそんな感じで取り上げる風潮が

ありました。

当時の時代背景による何かがあったにほかなりません。 私よりも上の世代は兄弟が多くいる家庭がかなりあった。4人、5人は当たり前であり、それぞれが生きていくのに必死であった、笑いあり、泣きありで楽しく暮らしていたわけですが大人の干渉はあまりなかった。

子どもなりに、子どもの世界を自治していたように思います。それが、出生率がさがり、大家族は徐々に減少していく。世の中も安定し経済的な自立も後を押し、子どもに向ける大人の力に変化がおきてきた、お稽古、お習い事が蔓延し学習塾も乱立された時代、子どもの意思よりも大人の意思が優先され。「この子のためだから」と猛烈に愛情をかけている親を山ほどみてきました。

今思うと「子どもにとってどうなのかな」という視点が欠落していた時代だったのかもしれない。

当時働いていた幼稚園でも子どもの自立心や主体性を取り戻そうと教育内容を見直し教え込んでいた様々なものをできるだけ子どもを中心に考え、子どもなりに筋道が立てられるような内容に変えていきました。

自立の体験を奪うもの

こんなことがありました。雨が降ってきた日のことです。ある小学校の校門付近に保護者の迎えの車列ができていました。

ほとんどがお母さんと思われる人が運転していました。「雨だからかわいそう」「ぬれたら大変」とでも思ったのでしょうか。親ならばそんな感情を抱くのは当たり前かもしれません。

そんな光景をしばらく見ていました。別の光景です、帰りの道中、神社の境内を抜けて帰る道に5, 6人の児童が傘を振り回し歩いていた。たわいもない会話をし、傘を銃にみたと戦いごっこしたり、境内の高台から広げた傘を放り投げどこまでひらひらと飛ぶのかを競ったり、たわいもない遊びを繰り返していました。

先にあげた車で迎えに来てもらった児童、境内で面白がって、たのしみ、下校する児童、けして車送迎が悪いとは言いませんが、些細なことですが自立の体験を奪っているようにも思います。

雨を好む人はそう多くはいないでしょう。おそらく「あー雨か」と嫌だなどと思う人が多いことでしょう。

でも、子どもはその「嫌」なことを面白いことにしてしまう、雨の下校の道中を「おもしろい世界」に変えてしまう力、想像と創造力が働くのが子どもの世界ではないでしょうか。

少なからず大人が子どもの自立心を奪ってしまう、自立の体験を奪ってしまうことがあるようです。

保育園には様々な体験の宝庫でもあります。あそびを核にして充実した体験を積み上げさせてあげたい (おおぞら保育園 廣部信隆)

